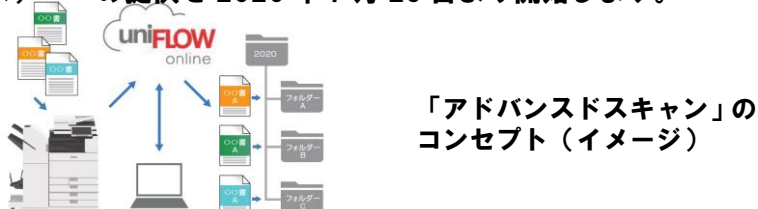


**新クラウドサービスで「imageRUNNER ADVANCE DX」シリーズが進化
自動電子ファイリングによりデジタルトランスフォーメーションを推進**

キヤノンは、オフィス向け複合機「imageRUNNER ADVANCE DX」シリーズ（2020年6月発売）の機能を拡張する新たなクラウドサービスとして、紙文書の電子ファイリングの自動化・効率化を実現する“uniFLOW Online Cloud Scan Advance（ユニフロー・オンライン・クラウド・スキャン・アドバンス）※1”の提供を2020年7月29日より開始します。



「アドバンスドスキャン」の
コンセプト（イメージ）

ICT技術の進化やクラウドサービスの普及、在宅勤務などのテレワークの拡大により、オフィスの働き方改革が進み、その中で文書共有を目的とした紙文書の電子化のニーズが高まっています。新クラウドサービス“uniFLOW Online Cloud Scan Advance”は、高速で高品質なスキャンが可能な「imageRUNNER ADVANCE DX」シリーズとの組み合わせにより、紙文書を効率的に電子ファイリングする「アドバンスドスキャン」を実現し、オフィスのデジタルトランスフォーメーションの加速と生産性向上に貢献します。

■ 「ファイリングアシスト」機能により電子ファイリングの自動化や効率化を実現

業務で使用する定型帳票のスキャンデータにOCR（光学文字認識）処理を行い、抽出した複数のキーワードの組み合わせから、ファイル名やフォルダ名とともに保存先のフォルダを設定し、帳票を自動で振り分け保存できる新しいファイリング方式です。本体の操作パネルに、部門や個人、帳票の種類、業務など使い方に合わせて事前登録したボタンを押下することにより、原稿を読み取り、事前に学習させておいた定型帳票と照合して帳票のレイアウトの特徴を特定し、ファイル名の付与、外部クラウドストレージ※2のフォルダへの振り分け保存を自動で行います。レイアウトの特徴はひとつのボタンに最大1,000件登録できるため、オフィスの多くの帳票を認識し、電子ファイリングすることが可能です。また、ADF（自動原稿送り装置）は、異なるサイズの用紙をまとめて読み取りできるため※3、複数の帳票を手作業で仕分けずに一括で電子ファイリングすることが可能となり、効率的な電子化を実現します。

■ ファイル名と保存先の簡単確認により確実な電子ファイリングが可能

付属ユーティリティ「スキャンセンター」により、複数のスキャンデータのファイル名や保存先フォルダなどのファイリング情報をPCの画面上で保存前に確認し、複数のフォルダに一括で保存できます。必要に応じてファイリング情報も修正できるため、確実かつ容易な電子ファイリングが可能です。

サービス名	価格（税別）	提供開始日
uniFLOW Online Cloud Scan Advance	月額3,200円/台	2020年7月29日

※1 「imageRUNNER ADVANCE Gen3」シリーズでも利用可能。
 ※2 対応するクラウドストレージは、box、Dropbox、Evernote、Google Drive、OneDrive、OneDrive for Business、SharePoint。
 ※3 ADFでまとめて読み取りできる用紙サイズは「imageRUNNER ADVANCE DX」シリーズと「imageRUNNER ADVANCE Gen3」シリーズで異なります。詳細は製品ホームページをご参照ください。

●一般の方のお問い合わせ先：キヤノンお客様相談センター 050-555-90056
 ●オフィス向け複合機ホームページ：canon.jp/office-mfp

<uniFLOW Online Cloud Scan Advance の主な機能>

1. 「ファイリングアシスト」機能により電子ファイリングの自動化や効率化を実現

- ・業務で使用する定型帳票のスキュンデータに OCR（光学文字認識）処理を行い、抽出した複数のキーワード※1の組み合わせから、ファイル名やフォルダー名を生成し、保存先のフォルダー※2を設定し、帳票を自動で振り分け保存。本体の操作パネルに、部門や個人、帳票の種類、業務など使い方に合わせて事前登録したボタンを押下することにより、原稿を読み取り、事前に学習させておいた定型帳票と照合して帳票のレイアウトの特徴を特定し、ファイル名の付与、外部クラウドストレージ※3のフォルダーへの振り分け保存を自動で実行。
- ・レイアウトの特徴はひとつのボタンに最大 1,000 件登録できるため、オフィスの多くの帳票を認識し、電子ファイリングすることが可能。
- ・ファイリングのルールはキーワードをドラッグ&ドロップで並べることで簡単に設定可能。ファイル名やフォルダー名には、システム情報（スキャン日時、ログインユーザー名など）だけでなく任意の文字列を使うことも可能。
- ・ADF（自動原稿送り装置）と組み合わせ、異なるサイズ of 用紙をまとめて読み取りできるため※4、複数の帳票を手作業で仕分けずに一括で電子ファイリングすることが可能となり、効率的な電子化を実現。

※1 ファイル名・フォルダー名の自動生成用キーワードの数はそれぞれ 20 個まで。

※2 生成できるフォルダー階層は 10 階層まで。

※3 対応するクラウドストレージは、box、Dropbox、Evernote、Google Drive、OneDrive、OneDrive for Business、SharePoint。

※4 ADF でまとめて読み取りできる用紙サイズは「imageRUNNER ADVANCE DX」シリーズと「imageRUNNER ADVANCE Gen3」シリーズで異なります。詳細は製品ホームページをご参照ください。



“uniFLOW Online Cloud Scan Advance” の操作画面例

作業員名簿										2020年7月20日			
事業所の名称		○山設計事務所											
所長名		下丸子太郎 総								一次会社名		○木組	
No.	氏名	職種	雇入年月日	生年月日	誕生日	電話番号	Eメール	TEL	TEL	健康診断	日		
												登録年数	年齢
1		計装工											

OCRで複数のキーワードを抽出
(イメージ)



ファイリングルールに基づいて生成した
フォルダーやファイル (イメージ)

2. ファイル名と保存先の簡単確認により確実な電子ファイリングが可能

- ・ 付属ユーティリティ「スキャンセンター」により、複数のスキャンデータのファイル名や保存先フォルダーなどのファイリング情報を PC の画面上で保存前に確認し、複数のフォルダーに一括で保存可能。「スキャンセンター」は、PC のブラウザで「uniFLOW Online」のポータルサイトにアクセスすることにより利用可能。
- ・ 必要に応じてファイリング情報の修正も可能。確実かつ容易な電子ファイリングを実現。



ファイリング情報を確認・修正できる「スキャンセンター」画面（イメージ）

<ご参考：imageRUNNER ADVANCE DX シリーズについて>

キヤノンは 2020 年 6 月にオフィス向け複合機の新シリーズ「imageRUNNER ADVANCE DX」を発売しました。新シリーズでは、対応する原稿サイズを拡張し、読み取り速度や読み取り品質を向上させた新開発の ADF を全シリーズ共通で搭載しています。読み取ったデータの傾きを自動補正するデジタル斜行補正機能を搭載することにより、原稿の傾きの物理的補正を排除し、両面読み取りスピード最大 270 ページ/分※を実現しました。また、原稿の複数枚同時搬送を超音波で認識する重送検知機能などにより、原稿から情報の欠落、劣化を防ぎ、読み取りの品質・正確性向上に貢献しています。

高速で高品位なスキャンデータを正確に生成する「imageRUNNER ADVANCE DX」シリーズと“uniFLOW Online Cloud Scan Advance”の組み合わせで、これまで業務効率化の障壁とされてきた、手作業による膨大な紙文書の管理やファイリング、紙文書の検索や共有の非効率性といった課題を解決します。

※ 「imageRUNNER ADVANCE DX C7700/C5700」シリーズにおいて、A4 サイズ普通紙両面カラー原稿読み取り時。



imageRUNNER ADVANCE DX C5760F
*オプション装着時

<クラウドを基盤としたサービスの市場動向>

総務省の「令和元年通信利用動向調査」によると、従業員が100人以上の国内企業2,115社において、クラウドサービスを利用している企業は2019年に64.7%となり、2010年の14.1%から大きく増加しています。ICT技術の進化や在宅勤務などのテレワークの拡大により、デジタルトランスフォーメーションなどのオフィスの働き方改革が進んでいます。昨今のこうした動向から、クラウドを基盤としたサービス市場は今後も成長を維持すると見込んでいます。(キヤノン調べ)

<主な製品仕様>

製品仕様の詳細は、ホームページをご参照ください。

- * boxはBox Incの商標または登録商標です。
- * Dropboxは米国Dropbox, Inc.の商標または登録商標です。
- * Evernoteは米国Evernote Corporationの商標または登録商標です。
- * Google DriveはGoogle Inc.の登録商標または商標です。
- * OneDriveは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- * SharePointは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。